

# 千葉県 地域連携のススメ

(地域学校協働活動ボランティアだより)

第34号「学校運営協議会の紹介(東庄町)」「フェーズフリー研修内容の紹介」  
「コミュニティ・スクールキャッチロゴマーク&キャッチコピー」  
令和8年3月26日 発行:千葉県「コミュニティ・スクール及び地域学校協働活動」推進委員会



春です。桜の花びらが年度の変わり目を鮮やかに彩っています。皆様にとって、令和7年度はどんな一年だったでしょうか。この一年、千葉県の「地域とともにある学校づくり」は一段と加速し、地域と学校がパートナーとして連携・協働して、充実した様々な活動や取組が各地で展開されました。令和8年度の更なる推進への期待も大きく膨らみます。今後も、コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的な推進により、子どもたち、先生方、地域の方々、みんなの笑顔を増やしていきましょう!

## 魅力体感レポート! 東庄町学校運営協議会



左横を向いたチーバクんの耳の辺りに「東庄町」があります。利根川沿いに広がる自然豊かな農業の町です。近年、ドローンを活用した地域課題の解決と地域実装に力を入れており、大きな注目を浴びています。町の学校は、こども園、小学校、中学校が一つずつ。このコンパクトさを生かした3校(園)合同の「東庄町学校運営協議会」が熱い! 「地域とともにある学校づくり推進フォーラム2025千葉」の県代表の提案もしていただきました。(地域連携のススメ第32号参照)

今回、県CSサポートセンターが、令和7年度の最終回を訪問させていただき、その魅力を体感してきました!

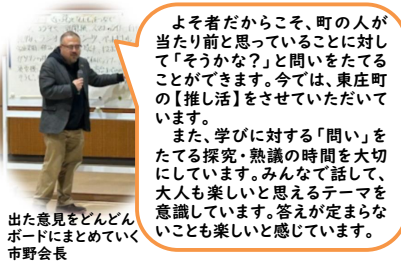
### 魅力① 幅広い参加者による熱い熟議

東庄町学校運営協議会では、正規委員14名(地域住民、保護者、地域企業の方、元教員、学校職員など)に加えて、多数のオブザーバーも参加し、毎回熱い熟議を展開しています。課題解決に向けて、様々な立場の方々から、様々な意見が出されることが大きな魅力の一つ。参加者の明るい笑顔と会場に響く元気な笑い声が、子どもたちを包み込む東庄町の温かい空気感を象徴しています。



### 魅力② 市野会長のファシリテート力

これをまとめるのが、市野 学校運営協議会長。町民ではない市野会長ですが、足しげく町を訪れ、学校や町のイベントにも参加して、すっかり東庄町に溶け込んでいます。東庄町愛あふれる市野会長が、学校の課題や前回の学びから協議会のテーマ(=問い)を設定し、熟議を展開していくのが東庄流。全国教室ディベート連盟(NADE)副理事長、次世代教育・産官学民連携機構(CIE)構成員、大学非常勤講師など、様々な顔をもつ市野会長のファシリテートにより、熟議はいつも熱く、わくわく感じっぱい。参加者の高い当事者意識が刺激され、様々な発想やアイデアが生まれます。



よそ者だからこそ、町の人が当たり前と思っていることに対して「そうかな?」と問いをたてることができます。今では、東庄町の【推し活】をさせていただいています。また、学びに対する「問い」をたてる探究・熟議の時間を大切にしています。みんなで話して、大人も楽しいと思えるテーマを意識しています。答えが定まらないことも楽しいと感じています。

### 魅力③ 町教育委員会との連携

協議会の運営は、毎回すべて町教育委員会が担当します。これにより、学校の負担は大きく軽減でき、熟議や課題解決に向けた具体的な取組に集中できます。日頃から教育委員会が協議会に深く関わり、学校や地域と連携することで、子ども園・小・中学校と地域が一貫性のある意識をもつことができます。学校のニーズに合わせた行政対応も速やかです。

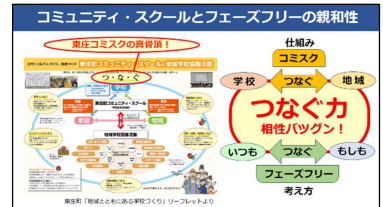


# コミュニティ・スクール × フェーズフリー 学校と地域の「いつも」が「もしも」を守る!

フェーズフリーとは、「いつも(日常時)」と「もしも(非常時)」を分けることなく、日常の身の回りで使っているモノやサービスを災害時にも役立てよう! という考え方です。県の防災対策でも推奨され、各地で様々な取組が進んでいます。

東庄町学校運営協議会では、このフェーズフリーの考え方に注目。今後の地域学校協働活動の取組の一つとしていけるよう研修会を開催しました。県CSサポートセンターでは、町の依頼を受け、「コミュニティ・スクールとフェーズフリーの親和性」とともに、今後の具体的な取組につながるヒントについて情報提供させていただきました。

学校と地域をつなぐ仕組みがコミュスク。一方、「いつも」と「もしも」をつなぐ考え方がフェーズフリー。どちらも「普段の暮らしの中で安心を育てる」という優い発想でつながっています。抜群の親和性がここにある! 日頃から「つなぐ」を合言葉に取り組んでいる東庄町では、日頃の緩やかなつながりが、自然といざという時の支え合いとなります。具体的にどんな取組ができるか、大人たちと子どもたちが一緒に考えていけたら最高。今後の東庄町の活動の広がりに注目です!



- ### コミュニティ・スクールとフェーズフリーの親和性
- コミュニティ・スクール×フェーズフリーのメリット
1. 日常の活動がそのまま防災力になる
  2. 地域と学校の協働が深まり、関係が強くなる
  3. 子どもたちの探究学習が深まり、主体性が育つ
  4. 「食糧が少なく、続けやすい」防災・教育活動になる
  5. 地域全体のレジリエンス(しなやかさ)が向上する
  6. 学校の魅力化・地域ブランド化につながる
- ～学校と地域の「いつも」が、「もしも」を守る～

両者の親和性の説明(研修会のプレゼン資料より)

#### 身の回りのフェーズフリー

うがい、手洗い、マスク着用等が、主体的にできる。

- …日常の健康を守る
- …避難生活の感染予防ができる

あひさつをする。人の話を静かに聞く、靴をそろえる、整理整頓、ルールを守る。等々の「いつも」の行いも、(安全な迅速な避難等)につながる。

#### 身の回りのフェーズフリー

食べたら買い足して補充する

…みんな食べている食糧を多めに買って置ける

ローリングストック

…東庄町の食事で食べる

#### 身の回りのフェーズフリー

ドローンを活用した通学路安全見守り

…生徒の通学路安全見守り

…東庄町の災害対策支援

身の回りのフェーズフリーの例。東庄町のドローンによる通学路見守りは、災害発生時には、町の災害対策支援としても活躍します!

研修会では、フェーズフリーの理解を深めた上で、身の回りにおける「フェーズフリー」の考え方に合いそうなもの・ことについて話し合いました。普段の生活の中にもたくさんヒントがありそう。今後、コミュスクでどんな取組につなげていけるか、楽しみです!

## みんなで使おう、ロゴマーク!

令和6年秋に、コミュニティ・スクール制度化20周年を迎えました。これを記念して、この度、素敵なコミュニティ・スクールのロゴマークが誕生しました!

このロゴマークは、文部科学省主催の「コミュニティ・スクール制度化20周年記念コンクール」ロゴマーク部門で優秀賞に選ばれた作品の中から、更に選考され決定した作品。作者は、山口県の中학생です。キャッチコピーは、同コンクールで最優秀賞に選ばれた鳥取県の高校生の作品です。二つの魅力が合わさり、素敵なロゴマーク誕生となりました。

下記サイトでダウンロードできますので、各地区のコミュニティ・スクールのさらなる推進・発展のために、ぜひご利用ください!

▼▼ダウンロード▼▼  
<https://manabi-mirai.mext.go.jp/torikumi/cs-torikumi/CS-logo-mark.html>

「コミュニティ・スクールや地域学校協働活動」についてもっと知りたい方は **学びの未来** で検索(文部科学省・こども家庭庁合同ホームページ) <http://manabi-mirai.mext.go.jp>



\*ご利用の際は、「使用にあたっての注意事項」にご留意ください。



学校と地域でつくる  
学びの未来 HP より